

米中間選挙 ブッシュ共和党敗北 イラク撤退要求の声広がる

11月7日に行われた米国の中間選挙で、ブッシュ大統領率いる共和党は、民主党に歴史的な敗北を喫し、上下両院で過半数を奪われました。民主党の勝利は、イラク情勢の行き詰まりに対する国民の不満が原因と言われています。

米軍の侵略・占領によりイラクは復興どころか、内戦状態に陥り、民衆が塗炭の苦しみを受けています。キッシンジャー元国務長官が言うとおりに、もはや「米軍の勝利はない」ことははっきりしており、どういう形で撤退するかということが問題となり始めています。

イラク「攻撃の大義総崩れ」 「復興進まず」でも居直る自公政権

そもそも、開戦の理由とされた、「大量破壊兵器」「国際テロ組織とのつながり」はいずれもフセイン大統領統治下のイラクには存在しなかったことは、米国民自身が認めています。

このように戦争の大義が総崩れとなった上に、米国民が約束していた民主化も民政の安定も進まず、イラク戦争は、「大惨事」以外の何物ももたらさなかったことがはっきりしたのです。

米国のいうことを鵜呑みにして自衛隊を派遣した小泉・自公政権の責任はどうなるのでしょうか。何千億円もの国費を使い、外交官やジャーナリストの命が奪われ、「平和主義」という国際的信用をかなぐりすてた結果に対する責任はだれがとるのでしょうか。安倍首相は当時の官房副長官でした。あのときついたウソの責任をとらせないということは、日本の政治の知的水準を示しています。

日米同盟の強化は 戦争への道

イラク開戦以来今日までの3年間を見ても、米国のいうことはウソであることが明らかです。米国民は対テロ戦争に、ベトナム戦争以上の戦費をすでにつぎ込んだといいますが、結果は泥沼であり、米国民自身が中間選挙において方向転換を模索し始めています。

憲法9条のもとで、曲がりなりにも自衛隊の侵略軍化に歯止めがかかっていた戦後の数十年。イラク戦争への参加はそこに風穴をあけました。在日米軍再編と改憲が重なって、自衛隊と米軍の一体化→ともに海外へ、ということが常態化されることを、私たちは断じて許せません。

一万人宣言への賛同署名を集めています！現在 6258 筆！

【平和と憲法を守りたい和歌山一万人宣言】

今から五九年前、近隣の多くの国々とそこに暮らす人々に償いきれないほどの惨害を及ぼし、自らも深く傷ついてこの国は戦争に敗れました。

この戦争を通じ、いかに多くの人々の生身が引き裂かれ、血が流され、生命が奪われたことでしょうか。たとえどんな理由があろうと、このような愚かな行いを二度と再び繰り返してはならない。残された焼け土の大地に生き残った人々は、そのことを固く誓って戦後の歩みを始めました。その誓いの結晶こそが日本国憲法でした。

この国はもう決して戦争などしない、だからそのための軍隊も持たない。それは、なお野蛮な暴力が支配する世界に対し、次の世界を力づくよく指し示す理性の光でした。

しかし、その後の日本の歩みは憲法の理想を裏切ります。外国の軍隊の駐留を許し、国土は幾度も戦争の基地となり、自衛隊が創設され、実質的には軍隊といえるものになりました。そして今、イラク復興支援という名で、戦争状態の国にその軍隊を派遣するにいたりました。さらに、そうして積み重ねられた既成事実の上に立って、ついに、憲法そのものが書きかえられようとしています。

たった一人一人の子どもの命がこんなに愛おしいのだから、たった一人の近しい人の死が想像するだけでこんなにつらいのだから、どのような大義があれ、無数の人間の命を奪う戦争を正当化することを私たちは拒否します。私たちの世代が平和への理想のともしびを消し、血塗られた歴史への扉を再び開くことは、絶対にあってはならないことです。

いま、権力の大きさと、既成事実の重みの前に、私たち一人ひとりの声はとても小さく、か細く聞こえます。でも私たちは、平和と、平和を守るための憲法を守りたいという、心の声に忠実でありたいと思います。そして、その声を、私たちにできる方法で広め、大きく、強くしたいと思えます。

いつか友情で結ばれた平和な世界を築くために、世界中の子どもたちに戦火も飢えもない新しい世界を贈るために、わたしは、この宣言に名前を連ねます。



教育に押しつけは なじまない！

11月16日、安倍内閣は衆院本会議で野党4党が欠席するなか教育基本法改正案を採決。これによって、憲法の理念を実現し「教え子を二度と再び戦場に送ることのないよう」制定された教育基本法は60年の歴史に終止符を打つことが確実となった。

新しい教育基本法案はさまざまな問題点が指摘され、小泉内閣が「急がず審議を尽くすべき」として採決を見送った経緯がある。そのような法案を内閣発足からわずか2ヶ月で、しかもタウンミーティングでの「や

らせ」問題、高校での必修科目の未履修問題、相次ぐ児童の自殺など教育を取り巻く混乱のさなかに強行採決したのは歴史に残る蛮行といっても過言ではないだろう。

高い支持率を背景に早くも牙をむいた安倍内閣。閣僚らの「核武装論歓迎」という声があがる中、次はいよいよ憲法改正への足がかり国民投票法案の可決へと向かうのか。今、この国の未来が大きく変わろうとしている。

憲法の理念を実現させ
教え子を戦場に送らない
教育基本法も60年の歴史に
幕が下りようとしている



小沢さん
選挙に強いて
聞いていただけ
大したこと無いケロ
もう何をやって



憲法カエールあらわる

煙樹ヶ浜の機雷敷設訓練に反対しよう！

去る11月18、19日の2日間にわたり、御坊煙樹ヶ浜海岸で自衛隊が「水際地雷展示訓練」を行いました。これは、機雷を敷設したり、撤去したりする訓練です。この訓練を年間80日に渡って行おうというものです。

これに対して、美浜の自然を守る会などの住民団体が、「美浜の自然を守ろう」、「自衛隊に機雷は必要ない」との声をあげ、反対集会を行いました。

この集会には、地元をはじめ和歌山各地から約100名が集まりましたが、この声をもっと大きくしていきたいと思います。

みなさんのご参加をお願いします。



美しい煙樹ヶ浜海岸

平和と憲法を守りたい市民の声

<連絡先> 〒640-1122 和歌山市西庄 1024-15

松浦攸吉方 電話/FAX 073-451-5960

<http://wpeacev.seesaa.net/>